

室内掃除法

六六

目白幼稚園 和田 實

近來、小學校の多くは校舎内の掃除を油拭法に因つて行つて居ります。此法は塵埃の飛び立たぬと云ふことに於ては、誠に結構ではあるが、幼稚園の様な小さな子供には、轉んだ際などに油が着物に着き易くて困る。座つたり轉んだりすることの多い子供に、何の心配もなくして、而も、ほこりの飛散を防ぐに都合のよい掃除法のないものかと云ふことは、私が年來、頭を悩まして居た問題でした。昔から、室内で灰神樂を上げた時は鹽を撒いて掃除したものですから、或時は之を眞似て行つて見ましたが、時候の最も乾燥する秋冬の頃には然したる効果もなくほこりは依然として飛散

しました。春夏の様な濕潤な氣候の時には粗製鹽には多少の「にがり」を含んで居るので、空中のしめりを吸収して相當の效力はありましたが充分ではありませんでした。又、老人が茶殻を撒いて、掃除するのを見たことがありますので、之を眞似して茶殻を撒いたり、菜の屑、野菜の屑や木の葉などを細かに切つたのを撒いて見たこともありました。是等は相當に效力がありました。が、材料の濕り加減が六ヶ敷くて、濕めり過ぎては板の間を濡らし、水氣が少くては「ほこり」の吸収が充分でなし、其上、餘り水に浸し過ぎては、材料がふやけ過ぎて、動もすれば箒の先で潰されて、却つて

板の間を穢すことなどがあつて、何うも甘く行きませんでした。且又斯う云ふ材料の細片が時々板の隙間に残留することなどがあると永い間には磨敗して來ることがあつて、却つて、掃除の爲めに大掃除をさせられることなどもありました。斯うした掃除の爲めには随分、苦勞させられました。併し、何としても甘い方法がなくて困つて居ました。然りとて、從來通りの方法で、唯、はたきを掛けて掃くのでは假令、後で拭き掃除をするにしても掃く時に飛散したほこりは、掃除の濟む頃には元の通り舞ひ戻つて來るので何にもなりませんし、且此掃除法では子供の一人で二人でも居る時には掃除することが出来ません。雨の降る日など外に出られず、室内を飛び回るので随分ほこりが立つことがあります、之を如何ともすることが出来ません。然りとて何とかしなければなりませんから、色々考へた末、從來の方法中で最も好

かつたものを改良することに因つて、新法を得やうと云ふことになりました。夫れで從來一番よかつたのは鹽でありましたから、此鹽の乾燥するのを防ぐ方法を探つて見ようと思ひ付きました。其爲め初めは粗製鹽に故意と水を少し含ませて行つて見ました。多少の效力はありましたが、床板に滲み込むことが多い様で、餘り良法とも見えませんでした。次に思ひ付いたのは水の代りに一層のこと、「にがり」を使つたら何うかと云ふことでした。そこで、粗製鹽に更に少しの「にがり」を含ませて行つて見ました。ところが是は一番成功の様です。「にがり」の含ませ加減さへ適當にすれば板の間に滲み込むこともなく、ほこりは少しも飛散することなく完全に掃き取ることが出来ました。爾來、此方法を續けて居りますが其爲め、何んな日でも何んなに子供があげられても塵埃の飛散することは絶対にありません。今の所、幼稚園の

掃除法としては最も好い方法の一つではないかと思ひます。此方法で行りますと雑巾での拭き掃除は一週に一度か二週に一度もすれば充分です。尤も、幼稚園内に板の間の少いところや畳其他の敷物の敷いてあるところは一寸考へねばならぬことがあります。夫れは撒いた食鹽にがりを含んだが多少共敷物や板の隙間に残留しますから、其邊が常に多少の濕めりを含んで居て、一方に「ほこり」を收し、飛散を吸収し、飛散を抑へて居る效があると共に常にじめ／＼した感じを與へるばかりでなく、若し履物を履かない場合などには、白い足袋や白い靴下の足裏を穢ぐすと云ふ缺點があることです。併し、必ず履物を履くことになつて居る板の間ばかりのところならば何等差支はないことと思ひます。「にがり」を含ませる程度は粗製の鹽を片手に握つて見て手を放しても形が崩れぬ位の程度が丁度好い加減の様です。餘り含ませ過ぎると板の上に滲みて、きたない感じを與へますから、成る可く「にがり」の少ないのが理想であります。

之を掃き始めるときに、成る可く細かに撒いて、ごみを掃くと云ふ氣持よりは寧ろ鹽其ものを掃く積りで掃いて行くと、ほこりは氣持よく鹽に吸ひ付けられて、ごみの小塊となつて、コロコロと轉がつて行きほこりは少しも飛散しません。分量は掃き始めのところへ一坪に一握り位の分量で澤山です。後はごみ同志吸着して行きますので撒くに及びません。従つて、費用も幾等のことでもなく、油拭きなどに比べたら、遙に、少費用だらうと思ひます。假令、梅雨時に板の間が濕めつて居つても、子供の着物を穢ぐことがあつても、直に洗ひ清めることは雜作ないことで、板の間は二三度雑巾掛をすれば濕りは探ることが出來ます。着物は洗濯すれば何の害も残りません。夫れに、假令、誤つて子供の手につき、口に入ることがあつても、少しも恐れる必要のないもので、油程にも嫌はれる必要はないものであります。何うか「ほこり」の多い幼稚園では此掃除法を御採用あらんことを希望します。唯一つ注意することは此

法に因ると箒の先が「にがり」に染みて、ほこりが付いてきたないですから、掃除の後で、箒の先を洗ふ必要があります。尤も其方法は至極簡單でバケツの中でザブ／＼とゆすぐ丈で充分にきれいにはなりません、是が一つ殖える手數であります。

斯様にして、幾日も掃除して行く中には仕舞には鹽は毎日撒く必要はないことになります。床上に吸付けられて残りの「にがり」で濕めた「ほこり」が既に多少のにがりを吸ひ込んで居ますから之を靜かに掃き寄せて行くと丁度好い加減に濕めた塵埃同志が吸付き合つて結構堅まつて行きますので、一週に一二度も撒けば充分の様になります。従つて、費用は益少くなつて行きます。昨年十月に買った一罐の「にがり」がまだ半分も使はない位ですから夫れで御察しが願へるでせう。「にがり」の一罐は（石油罐）八十錢でした。是は昨年十月の相場でしたから今はもつと安いでせう。「にがり」の使用法。買つて來た「にがり」は結晶して居ますが、之を四斗樽の中へ高さ一尺位の臺

を下に置いて乗せて置くと自然に濕氣を吸収して融解します。此融解液が即ち「にがり」です。之を粗製鹽（六貫目一俵一圓六十錢）に少しづつ含ませて用ゆるのです。にがり一罐に就いて鹽二俵位要りますから、費用は寧ろ鹽の方が餘計掛ります。夫れにしても一日一錢位のものでせう。地方に因つて鹽が安く買へる所ならば、費用はまだまだ儉約出來ます。東京で賣て居る鹽は粗製鹽と云つても食用になる鹽ですが、工業用にするモツト／＼粗製のもので差支ないのですから、專買所附近や工業的便宜のある所では頗る安價に之を求めることが出來るでせう。

意外の利益。と思ふことは此「にがり」掃除法を始めてから幼稚園に蚤が居なくなつたと云ふことですが、是は氣が付いてから、まだ日が淺いので確實性が乏しいのですが、何うも蚤が居なくなつた様に思ふのです。板の隙間や部屋に限々など「ほこり」の溜まる所は即ち蚤の發生所であり、すなわち、そう云ふ所が、また「にがり」で消毒されま居るので蚤が發生出來ないのではないかと思ひます。